

## 第3次大阪市文化振興計画（案）にかかるパブリック・コメントの実施結果

### 1 実施概要

- (1) 募集期間 令和3年2月5日（金）～令和3年3月8日（月）
- (2) 募集方法 送付（郵送等）、ファックス、電子メール、持参
- (3) 閲覧・配架場所
- ・大阪市経済戦略局文化部文化課（大阪市中心卸売市場本場業務管理棟8階）
  - ・市民情報プラザ（大阪市役所1階）
  - ・大阪市サービスカウンター（梅田・難波・天王寺）
  - ・各区役所及び出張所
  - ・大阪市ホームページ

### 2 実施結果

- (1) 集計結果 受付通数 7通（意見総数15件）
- (2) 受付通数の内訳

【受付方法別】 (通)

電子メール	ファックス	送付（郵送等）	持参
6	0	1	0

【年齢別】 (通)

30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	不明
1	1	2	0	0	3

【居住地別】 (通)

大阪市内居住	大阪府内居住	大阪府外居住	不明
2	0	2	3

### 3 ご意見の要旨と大阪市の考え方

お寄せいただきましたご意見の要旨と大阪市の考え方は、次のとおりです。

No.	ご意見の要旨	大阪市の考え方
1	・「美術研究所」を戦後美術の中に位置付ける整備をしてほしい。	・大阪市立美術館は、平成31年4月より地方独立行政法人大阪市博物館機構が運営しております。いただいたご意見については、博物館機構において、その実施手法を含め検討してまいります。
2	・2025大阪・関西万博についての機運醸成イベントのご提案及び応援ソングのご提案 ・中央突堤2号上屋活用についてのご提案	・いただいたご意見は担当部署に共有いたしました。
3	・自主性を尊重することで表現の自由を履き違えることにならないか。	・憲法第21条を尊重しつつ、また大阪市芸術文化振興条例に定める基本理念にのっとり、本市が実施する事業については、第3次大阪市文化振興計画の「目指す将来像」「基本理念」「施策の方向性」に沿った事業コンセプトにより、主催者としてその表現物がふさわしいかどうかを検討・選択し実施してまいります。 ・いただいたご意見は担当部署に共有いたしました。
4		

No.	ご意見の要旨	大阪市の考え方
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市立文化施設に適切な人材と予算を配置し、じっくりと創造活動に取り組みそれを発表してステップアップしていくような場を設けることが必要ではないか。</li> <li>・ コロナ状況下で文化芸術関係者の活動継続のために何が必要なのか、実態調査等を通じて現況を把握した上で具体的な支援策を検討して実施することを表明してほしい。</li> </ul>	<p>大阪市の考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市立文化施設は活動・発表の場であるとともに人材育成を担う拠点としても非常に重要であると考えており、舞台芸術創造の場である芸術創造館の活性化に取り組んでまいります。</li> <li>・ 新型コロナウイルス感染症の影響を受けた文化芸術活動の支援については、未曾有の事態の中で改めて文化芸術の持つ力が必要とされているところであり、令和3年度において支援事業の実施を予定しています。今後も文化芸術の専門家からなる「大阪府市文化振興会議」や「大阪アーツカウンシル」などの意見を受けながら、積極的に取り組んでまいります。</li> </ul>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 計画全体にわたり、芸術・文化行政にかかわる極めて一般論的な内容に終始しており、具体的な施策が一切盛り込まれておらず、読む者が具体的なイメージを持たず、「誰もが、文化芸術活動を通じて、自分らしく生き生きとした人生を送ることができる」行政を行ってもらえると期待できない。人材育成とは、育成される側に立てば、その方の人生の形成を左右するある意味人間の尊厳にも関わる部分であるが、実際に現場で人材育成の重責を担う多くの現場の方々の労苦と使命感を、行政や政治としてしっかりと受け止められていないのではないか。パブリックコメントは、行政（あるいは政治）が社会に対して、これから行おうとする施策をわかりやすく示し、市民の理解や意見を求める機会であるはずである。</li> <li>・ 美術館や博物館、その他の文化施設の活用についてほとんど触れられていない。行政が持つこうした文化施設は、文化政策の基礎となるものであり、大阪市民念願の大阪中之島美術館がオープンを控えているのにも関わらず、これらへの言及がほぼないことは、全く理解できない。</li> <li>・ この計画案は早急に撤回し、新たに計画を策定する体制を作り直し、ゼロから練り直すべきである。文化や芸術を愛する多くの市民はもとより、大阪に身をおいてまさに命を削るようにして真摯に芸術と向き合っている数多くのアーティストたち、他都市における文化や芸術によって都市の魅力を著しく向上させる事例に鑑みて大阪市にもそうした可能性を期待している多くの経済界の有識者やアートマネジメントに関わる関係者たちが、この計画案を書いた方から受けとるのは、「大阪市の文化行政はせいぜいこの程度のもので良い」というメッセージである。</li> <li>・ 自治体の行政において、文化政策の整備は極めて重要なものであり、またその重要性の度合いは、近年ますます高まってきている。他都市では、そのことを深く自覚し、多くの優秀な専門家から広範囲にわたり様々なアドバイスを受け、それらを取り入れて魅力的な文化プログラムを実施している。なぜなら、彼らは、芸術や文化がもたらすアートやクリエイティブな発想や物の見方が、市民が求める価値観と通じるものであることや、今の日本が抱える様々な社会的課題の解決を図る上で有効な手立てとなりうることを知っているからである。私には、この計画案を書いた方々は、そうした考え方や視点を持ち合わせていないと考える。また、文化行政が、そうした様相を持っているという事実から意識的に目をそむけ、自治体は文化とどう取り組むかという重要な問題に真正面から向き合おうとしていないと感じる。それは、クリエイティビティが社会の重要な価値となっている今日の都市の文脈において、都市格としての大阪の国際的競争力や都市の魅力を地盤沈下させることになる、全く間違った行政スタンスである。文化行政に携わる者として、優れた文化行政的成果をあげている他の自治体を広く見渡し、多くの意見に耳を傾けて、今の大阪には何が足りていないか、そして、これから何ができるのかを、今から真剣に考えてほしいと強く願う。</li> </ul>	<p>第3次大阪市文化振興計画は、大阪市芸術文化振興条例に基づき、芸術文化振興施策の総合的かつ計画的な推進を図るための計画として策定するものです。具体的な事業や個別施設の活用については、この計画に位置付けて実施してまいります。</p> <p>また、第3次大阪市文化振興計画（案）は、文化芸術に関する専門家で構成される「大阪府市文化振興会議」からの答申をもとに、大阪市として取りまとめたものです。</p> <p>大阪市では今後も文化芸術の専門家からなる「大阪府市文化振興会議」や「大阪アーツカウンシル」などの意見を受けながら「文化共創都市 大阪」を目指して芸術文化振興施策に取り組んでまいります。</p>

No.	ご意見の要旨	大阪市の考え方
7	<p>・第一級の芸術とは何か。また、「文化が社会を形成する」の指標が取り組み内容と一致していないのではないか。</p> <p>・「B文化が都市を変革するについて」の「大阪が誇る伝統芸能をはじめとする芸術文化と、観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業その他の各関連分野における施策との有機的な交流や新たな芸術文化の創造を通じて、大阪の都市魅力の向上につなげていきます。」について、どのような団体が、またどここの予算でその連携を進めていくのを想定しているか？また「C文化が社会を形成する」の事業においてもどのような団体が、どここの予算で取り組む想定か？</p> <p>・文化芸術と各関連分野における施策との有機的な連携や誰もが文化芸術を創造し、享受できる環境をつくること、そして、文化芸術を創造し、支える人材の育成・支援といった振興計画が達成できるためには、中間支援組織の必要性強く感じているがどう考えているか。</p>	<p>大阪市の考え方</p> <p>・文化芸術基本法では、「文化芸術を創造し、享受することが人々の生まれながらの権利であることに鑑み、国民がその年齢、障害の有無、経済的な状況又は居住する地域にかかわらず等しく、文化芸術を鑑賞し、これに参加し、又はこれを創造することができるような環境の整備が図らなければならない」と謳っており、第3次大阪市文化振興計画において、芸術文化を鑑賞できる機会等の充実に取り組むこととしています。指標における「第一級の芸術」とは大阪市が実施している「第一級の芸術にふれる機会の充実」事業で実施する文楽をはじめとした伝統芸能やクラシック音楽、演劇等を指しております。各指標は施策の方向性ごとに把握可能なものを検討し定めておりますが、施策の評価・検証については設定した取り組みの進捗状況から課題を整理し、今後の施策改善につながるように活用してまいります。</p> <p>・各取り組みにおける実施主体や予算は事業ごとに異なってくると考えられますが、令和3年度に大阪市が取り組む予定となっている事業においては、本市のほか芸術文化団体や区役所などが主体となり、市の予算や国の補助金などを活用して取り組んでまいります。</p> <p>・中間支援機能は、文化芸術の創り手と受け手をつなぐ役割として、非常に重要であると認識しております。大阪アーツカウンシルからもアートマネジメント人材を含む芸術文化を支える人材の育成についての提言をいただいております。芸術文化を創造する人材、つなぐ人材、支える人材の育成・支援に取り組んでまいります。</p>

なお、ご意見につきましては、趣旨をふまえて要約しております。また、同意見も寄せられたことから意見総数と一致していない場合があります。